

令和 6 年度

大江町総合教育会議 会議録

期 日：令和 6 年 12 月 13 日

大江町教育委員会

- | | | | |
|---|----------|-----------------------|-----------|
| 1 | 招集年月日 | 令和6年11月21日 | |
| 2 | 招集の場所 | 大江町中央公民館 町民ホール | |
| 3 | 開会年月日 | 令和6年12月13日 午後3時 | |
| 4 | 出席委員 | 大江町長 | 松 田 清 隆 |
| | | 大江町教育委員会委員 | 山 家 貴 代 |
| | | 大江町教育委員会委員 | 阿 部 国 彦 |
| | | 大江町教育委員会委員 | 鴨 田 幸 恵 |
| | | 大江町教育委員会委員 | 鈴 木 隆 之 |
| 5 | 会議に出席した者 | 大江町立左沢小学校校長 | 建 部 敦 彦 |
| | | 大江町立大江中学校校長 | 志 田 雅 彦 |
| | | 大江町立本郷東小学校校長 | 矢 作 誠 |
| | | 大江町立大江中学校教頭 | 奥 津 秀 昭 |
| | | 大江町立左沢小学校教頭 | 須 貝 和 幸 |
| | | 大江町立本郷東小学校教頭 | 西 谷 輝 彦 |
| | | 大江町立藤田の丘分校教頭 | 高 橋 一 徳 |
| | | 総務課長 | 五十嵐 大 朗 |
| | | 総務課長補佐 | 千 葉 利 枝 |
| | | 教育文化課長 | 金 子 冬 樹 |
| | | 教育文化課学校教育主幹兼指導主事 | 齋 藤 恒 治 |
| | | 教育文化課長補佐 | 高 瀬 こ ず え |
| | | 教育文化課総括主任 | 今 野 清 彦 |
| 6 | 協議事項 | (1) 大江町の今後の学校のあり方について | |

◎開会

金子課長：それでは、皆様お揃いでございますので、会議を始めさせていただきます。本日、進行務めさせていただきます、教育文化課長の金子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。また、本日はオブザーバーとしまして、桃井副町長も出席となりますのでよろしくお願いいたします。それでは、ただいまより大江町総合教育会議、大江町校長会・教頭会合同会議を開催させていただきます。それでは、初めにこの会議の内容につきまして、ご説明させていただきます。この総合教育会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づきまして、町行政のトップである町長と教育委員会等で構成する会であります。協議する事項としましては、教育を行うための諸条件の整備、その他地域の実情に応じた教育、学術、文化の振興を図るために、重点的に講ずる施策等について協議・調整すると規定されております。これを受け、本日は教育振興に向けまして、皆様のご意見をお聞きしたいという趣旨で、この合同会議を開催させていただきますので、よろしくお願いいたします。それでは次第に沿って進めさせていただきます。

はじめに、挨拶及び講話を、松田町長よりお願いしたいと思います。

◎あいさつ及び講話

松田町長：日頃より教育委員会、町行政全般につきまして、様々な面からご理解とご協力を皆様方にはお願いしています。改めてお礼を申し上げたいと思います。そして、大江町の学校教育、社会教育各種の事業を通しまして、子どもの健全育成、町民の生涯学習の充実にご奮闘いただいていることに関しても、改めて御礼を申し上げたいと思います。今年、大江町は 65 周年を迎えます。周りの町村は 70 周年です。大江町は、5 年他の町村から遅れて出来上がっていますが、その 5 年間の間に色々なことがあったのだと思います。非常に難産だったという話を聞いております。65 年も前のことでありますので、80 歳以上の方ぐらいしか当時の状況を実体験としてご存じないと思います。改めて、この 65 周年の年を過ごしていく中で思うのは、以前の左沢村と漆川村の 2 つの自治体が合併して大江町ができたわけですが、当時は漆川村の方が、人口が多かったという事実を改めて感じたところであります。今は左沢地区が、人口が集中した地区だという捉え方で、今の子供たちもイメージを持っていると思います。なぜ、本郷、七軒地区の人口が多かったのかというと、林業や農業といった生業自体がこの町の産業の経過としてあり、そこに人が多く住んでいた。左沢は左沢で、最上川舟運の歴史の中で繁栄をしてきたということを思いながら、この 65 周年の話をいろんなところでさせていただいております。そして、今年、本郷東小学校が 150 周年の記念式典として大変いい式典でした。そして、その取り組みが素晴らしいものだったと感じたところであります。昨年は、左沢小学校が 150 周年。そして来年は、大江中学校が 50 周年を迎えるということで、学校関係においては、大江町の歴史、教育の歴史を感じ、振り返ると改めてそんな 3 年間になってきていると思います。今日私は、図書カードを持っていなかったので作ってもらいました。なぜかという、以前にこの場所で「全てのことはメッセージ」という荒井由美さんの本を紹介したことがあります。

皆さんに左沢のことがこの本に書いてあると言うことを紹介したかったのです。もう一つは、釣りキチ三平という本で、皆さん名前は聞いたことがあると思いますが、その中でダイカイギウのことが書いてあることは知っていましたか。実は、12月から地域おこし協力隊で、空き家バンク担当の方から来ていただきました。芸工大を出た方なのですが、釣りキチ三平に、「ダイカイギウのことが書いてあることは知っていましたか。」と聞かれ、そんなメジャーな本にそんなことが載っていることを全然知らずに、大江町の図書館にも無いのではないかと、その本をちょっと見せてくださいとお願いして、図書館でも準備したらどうだという気持ちでいたのですが、窓口で検索をしてみたらあったのです。さすが大江町の図書館だと思いました。少しという分量ではなくて、200ページ弱の中で、川で釣りをしているところから物語が始まるのですが、ダイカイギウについて載っているページが漫画として描いてありました。ダイカイギウの話をする際には、そのような話も良いのではないかと思ったので図書カードを作ったということでございます。図書カードの話をずっとしていますが、今、所有者がどれぐらいになっているのか、私が何番目のカードなのかはわかりませんが、読書推進は今の教育委員会では非常に大きな柱になっていると思います。さて、本題の話をさせていただきたいと思います。1つ目は、コロナの対応から色々な変化があったことを検証したいと思い、一部を取り上げさせていただきました。コロナの前からギガスクール構想が進められていたとのことですが、一気にコロナで学校の休校等もあったことで、一人一台のタブレットが欲しいということでどんどん進められていきました。その頃は、わかりやすい授業につながるとか、学習の効率が良くなる、情報活用能力の向上、個別の学習、共同学習等色々なメリットがあるかと思います。ただ、学校教育現場では、子どもたちというよりも先生方の得意・不得意の部分もあると思いますので、その部分を埋め合わせて、均一的な活用・教育に使っていくことは、頭では理解していても、なかなか現場では苦勞されている部分があるのだと思います。ただ、時代に合わせた活用方法は、教育では避けて通れないものだと思いますので、さらに活かしていただき、授業研究等で子どもたちに伝えていただきたいと思います。それから、中学校の活動についてであります。コロナ明けの中で部活動自体も縮小なり、中止というふうなことがずっと続いてきたことと合わせて、少子化や働き方改革という状況も含めて、子どもたちの部活動については、持続可能なものとして進めていかなければならないと思います。今年からは、部活動が任意加入になりました。休日の部活動についても、月2回という形で今年度取り組んでいるようであります。今まで、部活動について地域移行という表現をされておりますが、聞いてきている中では、色々話し合い行ってきたと思いますが、文科省や中学校側の方でいろいろ話している内容といえますか、目的に目指すべき姿がまだまだ伝わっていないのではないかと感じています。保護者の方は特に、自分たちの時代の部活動のやり方が部活動ではないかと思っている人がまだまだ多いのだと思います。言ってみれば、これからはもうそのやり方が部活動ではないということで、このような姿・形で部活動や活動をやっていくことにならなければならないことをまだまだ説明しなければならない。そうでないと、なかなか保護者の方は今までやってきた部活動

の形にこだわるという言い方はおかしいですが、そのような姿を頭の中で描いてしまっていると思いますので、まだまだ理解してもらうような説明が必要なのではないかと思います。そして、社会教育や体育においても、コロナで中止または縮小という形で、何とか事業を進めてきたと思います。保護者の方や家庭・地域の意識も、コロナ禍を経て変わってきていると思いますし、多様化していると思います。特に体育では、町民運動会に代表される地域チームの参加については、以前のような形では成り立たないような状況にもなってきています。駅伝もそうだと思います。これは、人が減っていることが根底にはあるのかと思いますけれども、時代が進んでいる中で、地域コミュニティの希薄化、そして仕事や時間の多様化で忙しくなることが進んでいて、自分たちのことを優先することが多くなっています。以前は、時間に折り合いをつけながら参加してきたのですが、一回休んだ・縮小してきた中で更にその傾向が強まったと思います。これからは、何のためにこの事業をやっているのか考える必要があるのかもしれませんが。これまでやってきているという理由だけでは大変だと思います。参加しやすい競技の内容や、催しにしていくことを考えながら整備して今の時代にあった行事にして変化していかなければならないと思います。そして、学校行事などについても、コロナ禍の中で中止や縮小になることがだいぶありました。ただ、いろいろ工夫をして知恵を出し合い、進めていただけてきたと思っています。令和5年の春にコロナ禍が明け、規制がだいぶ緩くなったことで学校でもかなり苦勞をしながら、知恵を絞りながら色々な選択肢を考えて進めてきていただけていると思います。これまで通りでということだけではなくて、少しずつ今の時代に合わせた取り組みに変えていただいているのだと感じています。なので、もちろん地域で育てること、地域保護者などの色々な意見交換をしながら、今の時代にあったような学校行事とは何か決めながら進んでいく変化点なのだと思います。次に、不登校等の対応について話をしたいと思います。昨年度、中学校などを中心に教室に入れない生徒が多くいたことを聞きました。今年に入って、今は少し落ち着いてきている感じがあると聞いておりますけれども、今年度から人的な対応も必要だとのことで、色々と学校なり教育委員会と調整をしながら専門の職員を配置して、不登校などの対策を進めてきているという状況だと思います。その結果、別室登校から普通の教室で。そして、学校に入れない子供から別室登校へ。という風に少しずつ改善が進んでいると思います。特に学校に来られない子どもの支援では、学校外において子供の居場所づくりを支援団体であるオールグリーンさんの協力の中で積極的に推進し、子どもたちの実態に応じた環境を整備している状況です。専門である学校の先生方を前にして言うのもなんですが、一人一人の心身の状況に配慮するとともに、保護者との信頼関係が大切なのではないかと思いますし、子どもたちの実態に応じたそれぞれの対応が必要で、無理もできないですし、状況に応じたような対応で支援していただいている方々などの力も借りながら進めていかなければならないと思います。そして、そんな中で町の方では、今年の6月に大江町こども家庭センターを設置しました。これは、国の法律等に基づいて自治体が設置していくことになっているのですが、業務内容はこれまでの要保護児童対策地域協議会を大江町でもやっていましたが、その業務を中心に、子供の貧困や居

場所づくりなどを行って、母子保健と連携を強化して具体的に行っていくことにしております。つまり、国からの説明資料などの中では、全ての妊産婦子供家庭教育への支援をするのが、このセンターの役割だと書いてあります。現在も、色々な個々の問題が様々、大きいことから小さいことまで学校の現場などでは起きているのだと思います。役場の中の健康福祉課内の子育て推進室などとも連携を取っていただきながら、様々な課題解決に向けて、少しでも子どもたちが良くなるような方法づけ、問題の解決に向けてこれまでもやっていただけてきました。これからも、小さなことから特に重要なことなどについては、様々なケースが想定されておりますので、協力して対応が必要なものについては、学校や教育委員会、町や行政組織、民生児童委員や地域の方々と知恵を出し合いながら情報共有を含め連携して子ども達のために。少しでも改善できるような対応策を取っていきたいと思います。組織ができたからといって画期的に良い方向に改善するということではないと思いますけども、人の手をかけながら子どもたちを見守っていくことが必要だと思います。今のうちに、色々な問題がある子どもが増えている中では、なかなか学校の県教委の教員達だけでは対応しきれていない課題があると教育委員会から実施計画なりヒアリングの中で聞いています。こうした状況を踏まえ、先ほども言った別室登校や特別な支援が必要な子どもへの対応を受け入れることで、別途、町の独自事業として教育相談員2名、学習支援員の配置ということで、小学校に各1名、中学校に3名、ただし、小学校では1名ではなく2ずつの体制にしていきたいとのことで進めているのですが、なかなか人材が見つからないと聞いています。その他、地域コーディネーター1名や、外国指導助手が2名、ICT支援員、学校図書支援、理科観察実験アシスタント等々、その他にも部活の指導員など色々な方々から助けをいただいて、何とか対応していただいている状況だと思います。ただ、町の予算の中でも、全部単独事業として取り組んでいくということでは、会計年度任用職員の待遇の改善等があり、結構な金額が増加しているため、現場の希望には全てお答えできないということがあると思いますが、現状の中でできることを精一杯していきたい状況でありますので、ぜひご理解いただくとともに、皆さんからのご協力をお願いしたいと思います。次に、左沢高校さんについて少しお話をします。今日は、総合教育会議にはいらっしやらないですが、色々な意味で高校との連携を進めている状況だと思います。昨年、左沢高校の校長先生と大江中学校の校長先生、そして教育委員会・町が集まって、色々な話し合いをしました。元々は左沢高校の生徒数の確保について、どんな手立てが必要なのか、魅力ある学校づくりに向けて色々知恵を出し合って改善できればという話から始まっているのですが、話の中で高校と中学校の相互理解があまり進んでいなかったことが、会議の中でありました。表現としては、近くて遠い関係ではないかとのことで、距離的には近いわけですが、なかなか今までも交流というお互いを知るという意味では遠い存在だったということでもあります。というわけで、もう少しお互いを知る。特に中学校が左沢高校の総合学科について、保護者や中学校が理解しているか、もっともっと知ってもらい必要があるという話になったところです。できるだけ高校側も中学校側も、お互いに色々学び合いながら、できるだけ地元である左沢高校へ進学していただけるように、情報がなければ

ば現在の状況も理解していただけない現状かと思っておりますので、まず知っていただくことが必要なのではないかとということで、昨年度から取り組んできました。その結果、今年の4月は大江中学校から入学者が8名、その前の年は5名、そしてその前の年は2名しかいませんでした。その年その年で色々な事情があるのかと思いますが、子どもの数が減っている中で、少しずつ増えているということは、相互理解なり訴え方の面で成果が出ているのではないかと考えています。これから、ますます子供の数が減っていく状況でありますので、相互理解しながら左沢高校にとっても大江中学校にとってもお互いに良いような関係づくりを進めていただきたいと思います。大江町にとって左沢高校はもちろんなくてはならないものであります。なぜかという、私にとって一番は、左沢高校生徒が駅から高校まで通学している中で、歩いてもらっているだけでも、町民に元気を与えていただけていると思っています。若い人の声が行き交うことで町民も元気をいただけるのではないかと考えています。今年の春から、生徒数の募集について、1学年1学級の募集になってしまいました。そして、県のルールに従って地域連携協議会を設けて、今後の左沢高校の色々な取り組みについて話し合いながら、学校づくり・地域にとっての学校というところでどういったものが望まれているか、やっていかなければいけないのか、協議会の中で、今協議してもらっているところです。中身については、高校の魅力化・活性化について検討して、学校や生徒に対する支援体制ではどうなるのか話し合いになっています。左沢高校を支援する会ということで、以前から西川町、朝日町、大江町の3町の中で支援する会として活動してきました。どちらかというと、学校と保護者と地域の代表者の話し合いという協議会だったわけですが、最近は河北の谷地高校でも非常に生徒数が減ってきているとのことで、改めてそのような会や、企業人・経済界の人たちも含めての会にして、色々と新しい支援することを動き出している状況でもあります。私は、その支援策も大切なのですが、子どもたちが魅力的だと思う学校がどういうものだと思うことが大切だと思っています。そんな中で、お子さんから特に冬場、左沢駅から高校まで狭い道を除雪があまりなっていない時もある中で、なかなか通学が大変なところもあるとのことで、何か対応できないかとの話があり、12月9日から大江町のスクールバスが左沢小学校に来て、子どもたちを降ろした後の時間を使って、左沢駅の列車の到着時刻に合わせて左沢高校までバスを運行するとのことを試験的に始めました。16名の登録をしてもらって利用してもらいました。その中には電車通学の人ばかりではなくて、地元の方も1人いらっしゃるようではありますが、そういったことも一つの支援の例ですが今後も知恵を出していきたいと思っています。また、道の駅コラマガセがオープンして非常に賑わいを作っていますが、左沢高校では学校の近くでありますし、総合学科として色々な取り組み・工夫で協力いただきました。部活動、教育活動がある中で、一緒に活動してきたことなどもありましたし、道の駅で、自分たちが作ったネギ、りんごジャム、梅ジャム、それから花の苗の販売等を学習の一環として取り組んだとのことであります。そういった経験・活動を通して大江町に対する愛着を持っていただきたいと思いますし、実体験や商売をやってみて、将来的に会社勤め、サラリーをいただく形の進め方ではなくて、自分で起業をしてやっていくことの勉強にも

なるし、経験としてつながれば良いという気持ちをもものすごく持っています。今、運営をしている産業振興公社もそうですし、町の担当部署もそうです。左沢高校から道の駅を学習の場としても利用してもらって、また、私は、若い人たちのたまり場みたいになる一つの要素として左沢高校の生徒からフードコートやレストランで会話しながら学習する姿が見えれば来客する人にとっても良い印象になると考えています。最後に、学校の在り方について、避けては通れない話だと思いますので、基本方針案を教育委員会で1月中には作りたいとのことを聞いております。説明会やパブリックコメント等で意見をいただきながらまとめていくのだと思います。魅力ある教育をどう作っていくか。私はそこが一番大切だと思います。そもそも、この検討委員会を立ち上げて検討してほしいと申し上げたのが、児童生徒数の減少の予測というようなことで、昨年生まれた人数が12人、その前は16人だったことを踏まえて、この先の子どもの数、学校の人数が心配される、放っておけないという状況からスタートしているのですが、そこには人数のことばかりではなくて、どんな子供の姿、どんな大人になってほしいか。大江町らしい魅力ある教育にしていくためには、こんな学校の姿が望まれるかという部分を大切にしなければならないと思います。私が考えることとしては、「ふるさと愛」。この町に誇りを持ったり、良さを理解したり、町が大切だと思う心を育てたり、そういったことが必要だと思いますし、思いやりのある大人になってほしいと思います。相手を理解する、時には自分のことより、多くの方の事を思いながら、色々な行動や話をする。そしてコミュニケーション力があり相手と合わせたようなやりとりができる、楽しい雰囲気でのコミュニケーションが取れること。そして言葉の壁を乗り越えられるようなことだと思います。いわゆる英語教育とか外国語教育とか外国人との相互理解なども含めて、大きく言えば共生力ではないかと思いますし、教育振興基本計画で掲げている方針の1フレーズだと思っています。色々なことを計画しようとした時に、目的に向かうために目標を決めてどういう手段で進めていくのが大切となってくると思います。特に役場の中では、こういう取り組みをして更にこういう取り組みして、最終的な姿にたどり着くような進め方が結構多いのです。ちょっと受け売りの話ですが、目的を考えずに目先の仕事をしてても成果はなかなか見つけにくい、見えにくいのだと思います。その仕事に取り組む前に、その仕事为何のためであるのかきちんと理解して考えていく。そして、成果を出すためには最も重要なことではないかという考え方です。目的を考えて適切な目標設定をして、目標達成のための手段を考えるフレームワークが必要だということを今回色々と考えている中で思いました。目的が一番上にあり、目標が手段。さっきも言ったように、私たちの仕事をしていく中で、下から積み上げるということをよく言われますけれども、目標を何にするかということがあって、そこに向かっていくという考え方が必要なのではないかと思います。また、学校の在り方検討にあたっても、この考え方が当てはまるのではないかと思います。左沢高校との協議会の話を先ほどもしましたが、わかりやすいのでこちらを取り上げて申し上げますけれども、どうすれば学校の魅力化に繋がるのか？ではなくて、目的として魅力化を作るのだということ等、どんな目標を持てば魅力になっていくのかということなのではないかと思います。そして、そのために何

をしたらいいのか、どのような手段があるのかと考えていくような考え方です。中学生に選ばれる魅力ある学校とはどんな学校なのでしょう。そのためにどんなことを目指していくのか、そしてその他の手段は何なのかという考え方をもって進めていかないといけない場面が多くあるのではないかと思います。多くの場合はなんとなく、目標はぼんやりとした感じで共通認識としてあるのだと思いますけれども、はっきりとみんなで共有していくことが大事なのではないかと思います。我々がそれを積み上げた先に魅力が作られるという視点ではなく、まずはどんなことを魅力にするか、そのためにどうするかという目標設定が必要になると思います。なかなかこれを言い切るのは難しいのですが、そのような方法を取りながら手段を考えていくこと必要だと思います。最初に言いましたが、受け売りではありますが、そのような本を検索している中で「目的ドリブン思考法」という本があるそうです。是非、興味のある方は見ていただきたいと思います。以上、私からの話を終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。

金子課長：続きまして、山家教育委員よりご挨拶をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

◎あいさつ

山家委員：先ほど、松田町長から講話をいただきまして、コロナを受けての学校の教育のあり方や、部活動のあり方、地域の行事のあり方も含めて、そのキーワードは時代に合わせていたということだったようです。我々も、その時代に合わせて物事をまず一つ進めていかなければいけないのだろうと思ったところでした。そして、不登校・別室登校に対しても、新たに相談の場を設けたことによって改善しているとのことで、色々な手を差し伸べる居場所づくりも含めて、手当をすることの大切さが語られていたと思います。左沢高校については、本当になくしてはいけないと思います。学校ばかりでなくて、地域全体が活力の創出につながると思っておりますので、魅力ある学校について協議会で頑張って取り組んでいただければと思いますし、我々も後押ししたいと思っていますところでもあります。そして、本来の学校のあり方についても提言がありました。松田町長からは、どういった子供たちを育てたいのかということなのだろうと思います。大江町の柱である共生力に、まず焦点を当てようとしていると受け止めたところでございます。そして、それが 1 つ大きな目的になり、その一番の目的に向けて目標そして、どういう手段を取れるかを考えて、そこから積み上げていかなければいけないとの話がありました。色々講話をいただきまして、大変ありがたいと思っております。教育委員会の方も、ここにお出でになっている皆さんもそうですけれども、児童生徒数の減少については、本当に心を痛めて大きな課題としてずっと捉えてきているわけです。そして、どうすれば子どもたちの教育を保障できるか、そして今後どのようなあり方が子供たちにとって、町全体にとって望ましいあり方なのかずっと検討してきているわけでありまして。昨日、広報おおえが配布になりました。そこにも今回の検討の、答申のあらましを提言という形で掲載されておりました。町民の方々にも今、提言という形で出されているとのことで周知されている状況であります。

これからも、皆さまにご意見をいただくことになるわけですが、町長からの講話も踏まえながら、どのような学校のあり方が望ましいのか、それが共生力でありふるさと愛・思いやりのある大人、そして、相手を理解する人、コミュニケーションのある人、楽しい雰囲気醸し出す人、言葉の壁を乗り越えられるような様々な力を併せ持つ子供を育てるために皆さまから忌憚のないところで色々な角度からご意見をいただければ幸いです。以上です。

金子課長：続きまして、意見交換に入らせていただきます。ここからは座長を松田町長にお願いしたいと思います。意見交換の内容としましては次第にもあります通り、大江町の今後の学校のあり方について先ほど挨拶の中で町長、山家委員からもありましたとおり、大江町教育委員会に答申ということで、3つの提言をまとめたものを提示していただいております。今回は、答申の内容も踏まえながら皆様が考える大江町のこれからの理想とする学校、そして子どもたちの姿について、お話を聞かせていただければと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。それでは、松田町長よろしくお願いたします。

◎情報・意見交換

松田町長：本日は、細かいことでも結構ですので、色々と課題等教えていただければと思いますので、よろしくお願いします。まず初めに、進め方として今日は特に学校のあり方に限定するものではありませんけども、学校のあり方の答申等について、主幹から資料の説明をお願いして進めていきたいと思っております。

斎藤主幹：学校教育主幹斎藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。お手持ちの資料に、大江町の小中学校のこれからのあり方について（答申）という資料が上がっているかと思っております。資料をご覧くださいながらお話を聞いていただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。令和4年10月に、学校のあり方検討委員会準備委員会としまして、アンケート調査や意見交換を行うための組織を立ち上げております。準備委員会において、令和5年1月にアンケートを実施させていただきました。そこで、学校のあり方検討委員会を検討すべきであるという意見が半分を超えておりましたので、それを受けまして、令和5年8月付で大江町の小中学校のこれからの望ましいあり方について、教育長より諮問を受けまして、大江町の学校のあり方検討委員会が開かれております。委員長には山形大学名誉教授中井先生をお迎えしまして、6回の会議を経まして、昨日11月18日に答申をいただいたところであります。資料にあります諮問への答申というところ、すでに町報あるいはホームページ等でご存知のこととは思いますが、答申のところ3つの提言について私から読ませていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

答申1つ、目まぐるしく変化する社会や教育の動向、大江町の児童生徒数の減少等を考慮し、小学校と中学校を一つにした新しいシステムの学校、義務教育学校を創設すること。創設にあたっては、将来にわたり質の高い安定した教育ができる形態や環境

を見据え、時期・場所等について十分な検討を行った上で進めていくこと。2つ、今後、小学校において複数の複式学級の発生が見込まれることから、小学校の先行統合を行い、小中一貫教育を段階的に進め、小学校と中学校を一つにした新しいシステムの学校(義務教育学校)教育が円滑に進められるようにすること。3つ、小学校と中学校を一つにした新しいシステムの学校(義務教育学校)を創設する取り組みと同時に、『大江町だからこそできる魅力ある学校教育』(地域の方々と一緒に取り組む探究的な学びや自然を活かした体験活動などを通した「共生教育」)』について、学校のみならず保護者・地域の方々も含め、大江町全体でさらに深め共有していくこと。という内容で答申をいただきました。私からは以上です。

松田町長：ありがとうございます。先ほど申し上げました。意見交換ですが、なかなか「どうぞ」と言っても手が上がらない状況かと思いますので、学校のあり方についても結構ですし、私が先ほどお話しした内容に対するお話でも結構です。日頃から大江町の教育全体について思っていることでも結構です。最初に教育委員の方からご意見をいただいて、そのあと校長先生、教頭先生の順序でご指名させていただきます。1人3分程度で、お話をしていただけるようお願いしたいと思います。

阿部委員：最近ずっと学校のあり方について、教育委員と接してきました。学校のあり方に関して私も話をしたいと思います。先ほど会議があり答申内容を見させていただいて、スッと胸に入り込んできました。なかなかいい形でまとまっていると個人的に思いました。今日の、教育委員会会議で何故だろうという疑問が分かったのですが。検討委員の皆さんの考え方をお聞きしたところでした。基本的に、先ほど松田町長がおっしゃっていましたが、地元の自然なり人との関わりを大切にしたい教育というところを、ほとんど委員の皆さんから意見として出ていらっしゃる。つまり前町長からもよく出ていた共生という言葉がバックボーンとして、委員の皆さんもあってもこの答申なのだろうと思い、それが、すんなり入ってきたのだと思った次第です。教育委員の立場として今度は、答申受けて、在り方についてまとめていく立場になります。我々が一体となって取り組んでいかなければならないと思っておりますので、今後ともこの会を本音での語り合う会として大切にしていきたいと思っております。

鴨田委員：当たり前だったことが変化するという学校のあり方を、町民みんなで考えるきっかけになったことはとても良いチャンスだと思っております。色々な方々の意見、それもいろんな場面で、色々な立場の方のご意見をお聞きすることができたということは、これからの愛する大江町を考えるにあたって、本当にみんなが大江町の未来を考えてくれるきっかけであってほしいと思います。また、同じ方向を向いて、大江町を良いふるさとにして、子どもたちの良い未来を考えるというように、同じ方向を向いてくれればすごく良いと思っております。そのためにも、皆さんともっともっとざっくばらんに考えながら、学びながら、頭を柔軟にして考えていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

松田町長：学校のあり方については、どのような子供たちになってもらうか、どのようにしたら子供たちのためになる教育なのかという視点で、丁寧に、丁寧にやってくださいと教育委員会に話をして進めてもらっています。丁寧に取り組んできたことが今の方針につながっていると私は感じています。

鈴木委員：義務教育一貫校 9 年生という言葉を目にしまして、私も色々と他の人の意見を聞くと、皆さんからいろいろ聞かれたりもして、私もわかる範囲で話しますが、やはり大江町の少子化がすごく進んでいると実感しています。少子化が進んでいる状況の中で、今後義務教育学校に進んでいけば良いと思っています。その中で、大江町だからこそできる学校教育は何なのかと教育委員会で聞きますと、自然を生かした大江町でしかないような教育ができたかと思っていますし、他のところに行くと、小学校で稲刈り等を体験していたりするので、今でも自然と向き合っている学校教育していると思いますけれども、そのようなことも続けながら、本当に魅力ある学校教育がこれからも進められていければと思います。

松田町長：答申の中では、義務教育学校にしていくべきだという答申をいただいているわけですが、検討委員会の中で色々と話をしていますが、まだまだ義務教育学校の内容について、皆さんまだまだ見えていないし、そもそも義務教育学校が法律的にできてまだまだ 10 年まで経っていない状況ですので、効果の測定という部分では、まだまだわからない部分があるのだと思います。今後も勉強しながら、皆で意見を交換しながら進んでいくことがこれからも続いていくのだと思います。

建部校長：最初に松田町長から、大江町が 65 周年になるという話があって、我々は 70 周年でいろいろあったと思いながらお聞きしておりました。学校のあり方についても、他市町から比べると遅いという話も聞くことはあったのですが、逆に周りの様子を見ながらできることがあるので、それを強みにしないといけなというのを道の駅「コラマガセ」を見て思ったのです。「コラマガセ」が完成する前は、周りの道の駅を見て人がたくさんいると思ったりもしましたが、その間にしっかりと準備をして道の駅を完成させ多くの人が訪れる道の駅となっている。同じように、新しい学校についてしっかりと考えていかなければいけないと思っております。もう一つは、新しい学校を作るという方向ばかり考えると、今いる子どもたちがかわいそうになっているところがあるので、私たちとしては、今の学校の子供たちを将来の学校と同じぐらい理想に向けて頑張っていかなければいけないという気持ちを学校のあり方の話が出る度に思っております。あとは、新しい学校で魅力ある学校について、先ほどから話になっていましたが、子どもたちを見ると学校では学力向上が文科省でも県でも言われているわけですが、目の前の子どもを見ると人間関係が上手く築けないで心が傷ついている子どもがたくさんいるような気がします。挨拶で元気がなくなったり、子供たちの様子にチラチラと見え隠れするところがあるので、やはり心が大切にされる学校は間違い

なく中心になくてはならないと思っております。最後にもう一つは、答申の3番目にある、「自然を活かした体験活動を通した」というところがあるのですが、自然環境は100年経っても200年経っても中心に置くものだと思いますので、そういった大江町らしさを活用し、体験活動を充実させていければと思います

松田町長：寒河江市や河北町も、学校の統合という話題では、それぞれ極端な少子化から検討が始められていると思います。ただし、大江町のように1学年10人台の状況には今のところないので、通常の形で進められているのだと私は感じています。ですので、先ほど私も申し上げたように、義務教育学校は県内でも新庄と戸沢の三つの学校くらいしかないのだそうです。ただ、計画しているところは飯豊であったり朝日であったりと3つ4つはあるのだと思いますが、未知の世界ではありますので、色々な情報を得るところでは、ぜひお願いしたいと思います。

志田校長：先ほど、松田町長から部活動にしても前とは違うという話を聞いていて、やっぱり変わってきているとすごく感じます。例えば、先ほどの左沢高校の入学者数についてもそうなのですが、今3年生62名いますが、西村山地区内の高校を希望していた今年の3年生は19名ですから3分の1です。私たちの時代には考えられない時代になってきていると思います。また、不登校についても、改善されたという話をいただきましたが、昨年度は16名で学校の1割近く。今年度は、同じ12月現在ですが、8名ということで、半数。校外・支援センターもありますけども、やっぱり先生方、教育相談員の方も一緒になって、本当に一生懸命頑張ってくださっていると感じているところです。ただ、なかなかゼロにはならないと思います。ただ、もっと教員の方でも特別支援教育力が必要だという声が先生方からもあって、そういった研修をこれから意図的に組んでいくことが必要だと感じています。当然、義務教育学校となることを見据えた時に、9年間の生徒でどのくらいの生徒が出てくるか、私たちも特別支援教育指導力を、きちんと身に付けていく。当然、学習指導・生徒指導もしっかりできる教員になっていく必要があると先ほどの話を聞いて思ったところでした。中学校は、義務教育最後の3年間で、自立していくところを子ども達につけさせることだと思っています。ただ、自立に至ってないところもまだまだ子供なので、私の子供も手を借り過ぎなのではないかと思うところもありますし、私たちも失敗して、そこから立ち上がってくるとか、きちんとした躰の部分も身につけさせていくことは大事にしていきたいと思っています。先ほどの、ふるさと愛・思いやり・コミュニケーションの3つをキーワードとして考えた時に、義務教育学校であれば、ふるさと愛ということは、総合的な学習の時間は9年間で教育計画が作れるといったところや、思いやりの面について考えると、小学校1年生と中学3年生と一緒に生活することは中学3年生にとっても非常に意義のあることだと思いますし、小さい子の面倒をみたり、そこから同級生との関りもつながっていくと思っています。何よりも、大江町には高校もあるので、保育園も含めると、小・中・高の14、5年分の子供たちの教育に携わることができるのは、多分他の市長村ではなかなかできないと思います。

小・中・高だけでなく、幼保も入ってくると良い教育が町としてもできると思いました。

松田町長：志田校長先生からは、幼稚園・保育園から高校までの長いスパンでの話をいただきましたので、これからあり方検討を進めていく中で大切なのだと思いました。ぜひ、進めていく中で、色々な視点で考えていただきたいと感じました。

矢作校長：改めて「学校というのは何だろうか」ということを、いろいろと考えさせられるような機会がたくさんありまして、ましてや私たちは小学校におりますので、小学校の役目はなんだろうかということを考えるようになりました。色々と考えているうちに、子供たちの毎日の生活とか、あるいはもっと長い期間 1 年生から 6 年生までのことを考えると、学校の役割とは評価といった専門的なものを確かに伸ばしていく、積み上げていくことを確かに学習しているので、当然そういったものは大事なわけなんですけれども、学習指導よりも、あちらこちら見え隠れしている別のところである子供たちの日常生活の中の色々な意見を言い合うとか、お互いに思いやりの行動をするとか仲良くするとか、違ったものに対してそれは違うとちゃんと教えてあげるとか、色々な生き方そのものを毎日磨いていく場なのだとということを改めて思っているところです。究極、私なりに考えた解釈で言うと、結局学校は仕組みを作って、ある程度児童生徒がいて、そして切磋琢磨していく場だと思っています。合わせて、当然子どもたちでするので、遊びといったものを通して色々なルールを学んだり、相手に対して手加減するとか、あるいは工夫を遊びの中に取り入れていくとか、そういうところの要素もたくさんありますし、必要な身体作りにもつながっていくわけです。

今回の、あり方検討で、様々出尽くされていると言いますか、色々議論されていると思うのですが、改めて私が本当に思っているのは、確かに提言 1 や提言 2 のような仕組み・システムとして新しい学校を作り上げていくことが、すごく大きな皆さんの関心事になるのだと思いますけれども、3 つ目にある、漠然とした大きな表現になっていますが、大江町だからこその魅力ある学校教育といったところが今後、子供を持っている親だけではなくて、子供がいない色々な世代の人達が関心を持って自分たちの子供をどうやって成長させていきたいかを改めて問う機会なのではないかと前向きに捉えていくチャンスだと思っています。義務教育学校には、いずれなるのだと思いますけれども、それも楽しみにしている人たちもいるところなのですから、究極のところは人を育てる場所であるといった大江町の方の想いも色々聞いてみたいと今、進めながら思っているところです。

松田町長：この間、本郷西小学校時代の学区の集落座談会で学校のあり方は、これから大きな課題として進んでいるという話をした時に、今日の 2 番目の提言にある小学校を先行統合という言葉の中で、複式学級がかなり多くなることが予想されることも一因だという話をした時に手が挙がりまして、一人一人の育ちをしっかりと育てていただける少人数の複式学級で本当に良かったと子供が話していたと座談会の中で話になりました。

もちろん、この議論している中では複式学級を否定しているとか悪いとかではなくて、そのような意見もあるのだけれども、学校という組織全体のことを考えた時には一緒になることは必要だという判断なのだと思います。というような話をしたので、ぜひ、これから今いる子供を大切にしないではいけないとの意見が出ましたので、うまくリードしていただきたいと思います。

奥津教頭：ちょっと違った視点で話をしたいと思います。人口減少とか少子化というのは日本全
てで起きている現象で、今、政府やあるいは近隣市町村でよく言っているのは、「関係
人口を増やしていこう」ということをおっしゃっていると思うのですが、そのような
視点で先ほど志田校長が話していた幼保、小・中・高という大江町の特性を考えた時
に、義務教育学校の一本でいくという線ではなくて、例えば全国にある多様化学校と
いうものが、山形県の上山市に来年の４月にできるわけですが、その多様化学
校を大江町でもやってみるのも一つどうかと私は思います。あるいは、ご存知の方も
いるかもしれませんが、令和９年に隣に宮城県の広瀬高校というところはクラスもな
い、学級もない生徒が色々な形で学校に通うことを認めていこうという不登校傾向の
子たちに特化した学校を今作ろうとしているわけですが、そういったことをもし
しかしたら左沢高校でできないのかなと思います。そうすると、大江町に行けば「色々
なことがうちの子供もやれそうだ」というようなことが、多様化学校であったり、左
沢高校の柔軟性があると、「あそこの町に通わせてみたい」とならないだろうかと思
えていたところでした。合わせて、義務教育学校の良さは認めたいと思いますが、一
方で関係が固定化してしまう危険性もあるわけで、例えば私が前に住んでいた金井地
区では、小学校も中学校も全部同じなのです。小学校１年生で作った関係は中学校３
年生まで続くのです。それを途中で変えるのはすごく難しいことで、それを考える
ときに、一つにしてしまうことの怖さみたいなものがあるのかと思います。前に、前渡
辺町長と話した時に、「私が勤めている間は絶対一つにはしない」と宣言していました。
一つにすることの予算もあると思うのですが、一方で気をつけなくてはいけな
いこともあるのかと思います。大江中学校の校長先生が先ほどおっしゃったように、
不登校については課題です。確かに去年から今年にかけて減ってきてはいますが、そ
れでは来年もっと減るかという疑問です。なぜなら全国的に３０万人とか３５万人
とか下手すれば統計で言えば５０万人ともいうような不登校生徒が増加している中
で、大江町だけが減る事なんてことは、少し私は考えにくいのではないかと思います。
例えば、そういった子どもたちも救っていく場合に義務教育学校が良いのか、あるいは
別な形がいいのかということも議論の対象としていただけないかと思った次第です。

松田町長：義務教育学校の話が出てきていましたが、どれだけデメリットを埋めていくか、対
策をしていくか考えることが必要なのだと思います。ぜひ、多様化学校というもの
についても教えてください。この間私が出張で行ってきた北陸の私立学校なのですが、
昔は公立の学校で受けきれない部分の受け皿としての学校のつくりには基本的にはな
っていたようなのですが、今はもうそういう意味ではなくて、自分の学校に来てもらえ

るように努力しているような学校に変わってきているようでした。ですので、色々な取り組みをして、大江町ならではの教育を先ほどの校長先生の話の中でもあったように魅力ある学校、大江町らしい子どもたちに育てていくことを、もっと続けていかななくてはならないと思いました。

須貝教頭：今の2学期が終わろうとしている時期で、これまでの課題等を洗い出して、今後に活かそうと何段階かに分けて進めているところです。数ある課題の中で、特に大きな課題となっているのが職員不足、欠員が出ているところです。本来入るべきところに入っていないので、それをカバーしなければいけない状況で、取り組んでいます。そこで、色々な課題が次々出てくるのですが、統合していくとなった時に、学校が統合していけば、教員が不足しているところへの一つの解決策として教員が増えていくと思います。統合することは、一つの方法として大江町に限らず、これから先大事なことになるしていくと私は思っています。今あった話なのですが、先ほどの3番目の提言が私にとっても大事なところ。学校というのは機会均等、全国どこに行っても一律のものが受けられる良さがある反面、どこも同じである。そういった時に、方向性のある特色のある何か方法を魅力として出していくことが、これからはとても大事なのだと思っています。そのような時に、大江町は特色を出せる魅力がたくさんある自治体だと思っています。学校と学校教育・社会教育が一つになって、例えば地域の人材、地域の自然環境をどんどん学校に取り入れていくことで、他の学校にはない魅力を出せていくと思っています。そのようなことで、最初の話と合わせて、義務教育学校になっていくということは、私は望ましいことだと思っています。

松田町長：新しい観点ということで、学校教育と社会教育の勉強をもっともって、地域とさつき私が話したふるさと愛が、もっともって育つような仕組みができてくるかもしれないと思いました。教職員不足の部分については、なかなか採用する側の視点から言うと、この先子どもの数が減っていく中で、どんどん採用していくことは管理する側からしたら難しいのだと想像するのですが、「人を育てるのは人だ」という基本的なことを私も思いますので、人を育てる考え方について、もう少し力を入れられるのではないかと思いますし、そういった意見は色々な機会でお聞きしていきたいと思っています。

西谷教頭：魅力ある学校づくりのためには、私は魅力のある教員というのが大事だと思っています。若い先生がすごく多い今の段階で、もっともって勉強してほしいと思います。大江町に勤めていらっしゃる先生方の授業を拝見させていただくことがあって、一番感じたのがすごく頑張っていると思いました。100点の授業かと言われるとそんなことはないと思うのですが、本当に先生が一生懸命勉強して子どもたちに向き合っていて、授業を作り上げていると感じるので続けてほしいですし、ぜひそのような先生が多くなるように、教育センターの研修ももっともって充実していけばいいと思っています。

松田町長：教員不足の話や教員の資質と言いますか人を育てるためには必要なことは、学校教育センターを中心に研修をして、どんどん新しいことを取り入れていただきたいと思いますし、今は大変なのかもしれませんが、タブレットやICTを活用したような授業で、子どもたちが興味を持てるような授業ものあるのではないかと感じているところです。先生があつての子どもたちの教育だと思いますので、いろんな場を通して、交流を通して頑張りたいと思っています。

高橋教頭：先ほど、義務教育学校の話が出たのですが、実は大江町にはすでに義務教育学校があります。義務教育学校という名前ではありませんが、藤田の丘分校は実質義務教育学校です。小学校教員2名、中学校教員5名の計7名で小・中一貫校教育を行っております。教科担任制で、中学校の先生は小学校の生徒に指導しますし、小学校の先生は中学校の生徒に指導します。そのように、多分色々な形態がありますので、この大江町に合ったような形態で検討を重ねて、子どもたちの様子を見て色々なシステム・方法がありますので、取り入れていけば良いのではないかと考えております。特に、藤田の丘分校には、大江町のお子さんがいないのですけれども、藤田地区の人は子供たちのことを受け入れてくださって、お祭りには呼んでくださいますし、ビアガーデンにも呼んでいただけますし、マラソン大会をする場合は外に走りに行くのですが、日にちを教えてくださいれば応援しますなどのように本当に暖かい言葉をいただいて、子どもたちと一緒に見守っていただいております。私も前は、大江町の本郷東小学校に勤めさせていただいていたのですが、ここは地域素材が本当にいっぱいあると思います。私も青芋の総合学習に取り組ませていただきましたし、月布川や朝日少年自然の家もあります。色々な教育素材がたくさんあるので、本当に歴史もありますし、ちょっと工夫するだけで素材がたくさんあるので、魅力ある教育は、先生方のちょっとしたアイデアとか地域の方のご協力ですべて良い総合的な学習や地域学習ができるのではないかと思います。

松田町長：もうすでに義務教育学校のような実態のところでもあるというのは私も気づきませんでした。これから、中学3年生から小学1年生までの子供たちの生徒がいる学校をつくっていくということにおいては、いろいろなお話を聞かせいただきながら進めていくヒントになるのではないかと考えたところです。

松田町長：最後に、山家委員よりまとめのコメントをお願いします。

山家委員：色々な先生方の皆さんのご意見があるのだと思ったところでした。私も先ほどは、教育委員会でも様々な意見交換をしてきたのですけれども、建部校長先生が、今いる生徒を大事にしないではいけなとおっしゃいましたが、本当にその通りだと思うのです。私が「あり方」を考える上で、子供たちの意見を聞くべきではないかと先ほどもお話ししてきたのでした。なかなか難しいとは思いますが、自分が入ることになるわけではないのですけれども、統合になるとすればこんなことが不安になると

か。あるいはこんな学校だったら行ってみたい等、きっと色々な意見が出てくるのではないかと思います。ですから、小学校も中学校もどんな学校だったら良いかも含めて、心配事、期待など色々な角度から意見を聞いていただける機会があれば大変だと思いますが、参考になるのではないかと思ったところでした。加えて、大江町にはこうたくさん魅力的な素材があると皆さんおっしゃっているわけで、私もその通りだと思うのです。地域の元気をなくさないよう、いわゆる学校運営協議会もあるわけですが、改めて地域で活躍してくれた方々の意見を丁寧に聞いて、そして皆さん年を取っていくわけで、後継者をずっと繋いでいかないといけないと思います。教育を支えていく上で必要になると思うので、繋がりの方、作り方も含めて運営協議会の方、今までの放課後児童クラブでも良いですし、色々な形で学校に関わってくださっている地域の方々に「これからどのようにしていっていいか、自分たちがどのように協力できるか、繋ぐとすればどんな方法があるのか」聞いていく必要があるのではないかと思ったところでした。全体としては、私も義務教育学校や小中一貫校に進んでいくことになると思うわけで、色々な心配事もあるわけですが、義務教育学校のメリットを発揮できるようなカリキュラムのあり方を検討していただきたいと思います。例えば、不登校とか学校に来られない人も、不登校生が集うような一つのクラスとして設けられるような仕組みになっていかなければならないかと思っています。不登校とか色々な支援が必要な子供たちが学ぶクラスというように入れて、クラスを増やし、先生方も増やせるような方法や、1年生から3年生までの学習で遅れてしまったのであれば、もう一度戻って学び直しができたり、少し進んでいる生徒にはもう少し先の内容も勉強できる機会が与えられたりと柔軟に対応できるカリキュラム検討しても良いのではないかと思ったところでした。これからどのようにしていくか方針を固めていかなければならないわけで、多くの人の意見をきちんと聞いて丁寧に進めてきたという松田町長をはじめとする方々の姿勢はとても大事だったのではないかと思います。

松田町長：ありがとうございました。今、私の考えていることを皆様の前でお話させていただくことができて、ありがたかったと思います。話したことがすべてではないですし、間違いもあったかと思いますが、色々議論することで良い扉が開いていくのではないかと思いますので、今後ともご協力をお願いして、今日の会議を終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。

金子課長：これをもちまして総合教育会議を閉会させていただきます。

閉会 午後5時00分